

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立川永小学校
校長氏名	沖平 渉
作成日	令和5年3月10日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、主体的にたくましく生きる子供を育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で基本問題の正答率が県平均を上回る。 ・毎日の勉強が分かる(児童90%以上)	・学校が楽しいと感じる(児童90%以上) ・いじめの解消率(100%) ・情報モラル授業を実施する ・朝の挨拶ができる(100%)	・基本的生活習慣を整え、感染症予防に留意する。 ・体力の向上を目指し、縄跳びカード等、学習カードを用いて取り組む。 ・休み時間は外遊びを積極的に行う。 ・朝ごはんを食べる(100%)	・学校の教育活動や子供の様子がよく伝わった(保護者85%以上) ・学期に1回以上地域の人材を活用する
重点目標	◎基礎基本の確かな定着 ◎子供主体の授業づくり ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎高学年をリーダーとしたチーム学校づくり	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎安全教育の充実	◎家庭・地域との連携充実 ◎幼保小の接続、中学校区における学校間連携の推進 ◎地域の人材及び資源の活用
取組の状況	○「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条」を定着させ、自分の考えを書き、そのことを根拠に発言できる授業を行う ○ICTを積極活用し、基礎基本の定着を目指し、どの子にも分かる授業を目指す ○校内研究授業を通して授業改善を図り、教師の授業力を向上させる ○保護者と協力しながら家庭学習の定着を図る ○図書室の開放、読書タイム、読書カードなどを通して読書活動の推進を行う	○道徳の教科書、「心のとびら」を活用し、「特別の教科道徳」の充実を図る ○日頃からアンテナを高くしていじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、いじめアンケートを実施し実態把握及び未然防止に努める ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について学ぶ機会をもつ ○児童会活動の充実を図り、高学年をリーダーとし、子供が考え、実行する取組を行う機会を増やす	○コロナ禍の制限された中であるが、授業を中心として児童の体力向上を図る ○「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨し、基本的生活習慣を整え、感染症予防の指導をする。 ○交通安全教室や避難訓練を計画的に実施し、危機対応能力を養う	○学校便り、学級便り、保健便り等を通して学校の情報を定期的に発信するとともに、授業や行事等を積極的に公開する ○地域の方々との交流を通して、人々の生き方について学ぶ ○幼保小の接続及び中学校区での連携を推進する ○授業のゲストティーチャー、読み聞かせボランティア等において地域の人材や資源を活用する
取組の成果と課題(評価結果)	○コロナ禍で感染防止に十分配慮しながら、例年に比べ制限はあったものの自分の考えを出し合い、話し合い深めていく授業を行った。 ○県学力到達度調査では、今年度は、5年国語と理科が県平均を上回った。全体的に基礎的なことはよく理解できており、日々の授業や家庭学習において、基礎学力を定着させようとする取組が成果を上げている。算数理科においては、考えを書いたりする授業の成果が出てきている。 ○児童の81%が毎日の勉強がわかると回答している。 ○タブレットドリルを朝学で使ったり、調べ学習をしたり、自分の考えをまとめるのに活用したりと、ICT端末を積極的に活用することができた。	○児童の92.3%が学校は楽しいと回答している。 ○いじめアンケートを実施するとともに、日ごろの見守りといじめ・不登校委員会を定期的に開き、児童の実態把握に努めているのでいじめは100%解消している。今後一過性の指導に終わらず、継続して、校内で連携し見守り指導していく。 ○情報モラルや児童理解について外部講師を招いて学習する授業を行った。 ○コロナ禍の制限された中であるが、児童会活動を中心とし、高学年をリーダーとし、みんなが楽しめる取組を行うことができた。	○感染症には十分配慮しながら、子供たちは元気に外遊びを行い、授業でもできる限りの体力づくりを行った。 ○安全教育のための避難訓練は例年通り実施できた。 ○生活調べの結果を学級懇談会や保健だより等で保護者に知らせるとともに、健康的な生活の必要性を促した。「早寝・早起き・朝ごはん」について、保護者に啓発することができた。	○ホームページや学校便り、学級便り、保健便り等を通して学校の情報を定期的に発信した。今年度は家庭訪問を行う等、保護者と担任が直接話ができ、学校の教育活動や子供の様子がよく伝わったと考える保護者が昨年より増えた。いじめをなくす取組等については、学校の取組をもっと情報発信していきたい。 ○幼保小中の連携については、感染症防止に努めながらも、高学年が近隣の保育所児童と交流するなどの取り組みはできた。 ○地域の方との交流も大幅に縮小された。その中でも田植え・稲刈り、町探検、花の植え替え、図書ボランティア等、お世話になりました。感謝致します。
改善方法	○国語科・算数科を中心として授業の中で「書くこと」を意識的にこれからも取り組んでいく。 ○授業の中で自分の考えを書き、それを出し合い、話し合って深めていく授業をさらに進めていく。 ○ICTを積極活用し、放課後フォローアップをこれからも続けて行う等、基礎基本を大切に、毎日の勉強が分かる子をさらに増やしていく。継続的・計画的に家庭学習・自主学習に取り組むようにしていく。	○日頃からアンテナを高くし、児童の実態を把握し、保護者と連携しながら、いじめの防止、早期発見、早期解決に努める。 ○挨拶運動や交流活動を継続しコミュニケーションを通して児童の心の教育とする。 ○関係機関と連携し、情報モラル教育を今後も行っていく。	○諸般の状況を鑑みながら、児童の体力向上に係る取り組みをしていく。 ○保健だよりを活用し、児童の健全育成を図る ○安全教育については、例年通り交通安全教室や避難計画を実施していく。	○諸般の状況を鑑みながら、幼少・小中の連携をできる範囲で行い、地域や保護者の力を積極的に学校運営に活用できるような取組を工夫する。 ○諸般の状況を鑑みて、参観・懇談の機会を増やし、ホームページや学校だより、学級だより、保健だより等でも引き続き学校の情報を発信していく。

3 その他の課題

- ・学力向上の取組に少しずつ成果が感じられるので、確かな学力の向上に向けてさらに取り組んでいきたい。
- ・諸般の状況を鑑みながら、児童の育ちにつながるよう地域や保護者の力を積極的に活用できるような取り組みを計画していきたい。
- ・校内研修をより一層充実させるとともに、教師の授業改善及び指導力の向上を目指した取組を継続していきたい。
- ・いじめアンケートやいじめなくそうデーなど、学校の取組をもっと積極的に保護者にアピールしていきたい。